

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科)(2022.12)令和4年度:

新型コロナウイルス感染拡大が及ぼす看護学生の看護師像とキャリアデザインへの影響の調査

小川未空、丸田夏絹
(指導：神成陽子)

緒言

2020年3月から始まった日本での新型コロナウイルス感染拡大により、医療及び看護を取り巻く環境は大きく変化した。新型コロナウイルス感染症関連の業務に多くの労力が割かれるようになり、医療職者の社会的な問題も挙がっている。以上のことから今日の医療職に対する印象はあまり良いものではなく、看護学生の多数が看護職につきたい気持ちにあるものの、学習環境やその後のキャリアに対する不安を抱えていると推測する。

本研究は新型コロナウイルス感染拡大（以下、新型コロナ感染拡大）がコロナ禍における看護学生のキャリアデザインに及ぼす影響について明らかにすることを目的とする。それを知ることで未だ収束が見込めないコロナ禍における看護学生のキャリア教育に役立てられ、今後、看護学生のキャリアデザインに影響を及ぼす出来事が起こった場合に起こりうる変化の参考となると考えられる。

用語の定義

キャリアデザイン：「はたさば ナースのはたらくサポートブック」（日本看護協会，2019）を参考に、将来のなりたい姿やありたい自分を実現するために、自分の職業人生を主体的に設計し、実現していくことと定義する。

方法

研究対象：A市内の2大学（B大学、C大学）に在籍する看護学生1～4学年（367名）を対象とする。

調査内容：一柳（2009）ら、古川（2016）らの研究を参考に自作の無記名自記式質問紙を作成した。①新型コロナウイルス感染拡大のキャリアデザインへの影響の有無を従属変数とし、②基本属性、③看護職を選択した志望動機（17項目）、④現在看護学生が抱く看護師像（11項目）、⑤現在考える卒業後の職業選択、⑥コロナ以前に思い描いていた卒業後の職業選択を独立変数とした（図1）。志望動機、看護師像は「1：当てはまらない」-「5：当てはまる」の5件法とした。

データ収集方法：研究者が直接質問紙を配布し、B大学は1～4年生に留め置き法、C大学は大学責任者と相談し、2、3年生に集団法で実施した。調査は2022年8月15日～9月8日で実施した。

データ分析方法：単純集計、2群間の比較には χ^2 検定、Mann-WhitneyのU検定を行った。看護職を選択した志望動機、現在看護学生が抱く看護師像に関しては、因子分析（最尤法）を行い、従属変数への影響を明らかにするために二項ロジスティック（強制投入法、変数減少法、尤度比）を行った。有意水準は5%とした。統計解析にはSPSSを用いた。

倫理的配慮：本大学の倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号：22032）。研究目的、方法、匿名化の保持、協力は自由意志であること、協力の有無によって不利益は被らないこと、得られたデータは研究以外に使用しないことを口頭及び文書で説明した。

結果

配付数347名、回収数300名（回収率86.5%）、有効回答数286名（有効回答率95.3%）であった。

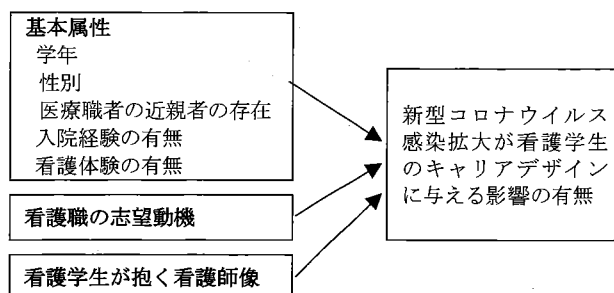


図1 概念枠組み

1. 新型コロナ感染拡大が看護学生のキャリアデザインに与える影響の有無

新型コロナ感染拡大によりキャリアデザインに影響があった学生（以下、コロナ影響有り群）は119名（41.6%）、影響がなかった学生（以下、コロナ影響無し群）は167名（58.4%）であった。

コロナ影響有り群と無し群の比較では、基本属性（学年、性別、医療職者の近親者の有無、入院経験の有無、看護体験の有無）の割合に有意差はなかった（ $p>0.05$ ）。志望動機では「自分の病気・通院体験」、「やりたいことがない」の2項目、看護師像では「コミュニケーション」の1つの項目に有意差がみられた（ $p<0.05$ ）。

コロナ影響有り群のキャリアデザインに影響を与えた新型コロナ感染拡大の状況を表1に示す。

表1 コロナ影響有り群のキャリアデザインに影響を与えた新型コロナ感染拡大に伴う状況の内容（複数回答）（ $n=286$ ）

新型コロナ感染拡大に伴う状況	人数	(%)
授業形態の変化	75	(63.0)
コロナ禍の看護職者の過重労働に関する報道	58	(48.7)
コロナ禍に収束が見えない現状	57	(47.9)
医療職者やその家族が差別されている報道	25	(21.0)
コロナ業務での医療職者の活躍	24	(20.2)
新型コロナウイルスワクチン優先予防接種	12	(10.1)

2. 看護職の志望動機と看護師像が及ぼす看護学生のキャリアデザインへの影響

看護学生の職業選択の志望動機（17項目）の因子分析の結果、「過去の体験」「経済面・自立」「内発的動機」「憧れ」「他発的動機」の5つの因子、看護学生の思い描く看護師像（11項目）は「否定的」「看護の資質」「柔らかさ」の3つの因子に分類された。因子分析をもとにロジスティック回帰分析を行ったところ、新型コロナ感染拡大によるキャリアデザインに与えた影響として有意な項目はなかった（ $p>0.05$ ）。全項目の分析では、志望動機「自分の病気・通院体験」の1つの項目が要因として抽出された（OR:1.202, 95CI:1.006-1.437）。

3. コロナ禍前後の職業選択の変化

コロナ影響有り群のコロナ禍前後の職業選択（表2）はコロナ禍以前・以後のいずれも看護師を希望する学生が最も多く、次いで保健師、助産師、大学院への進学、その他となった。コロナ禍前後で順位は変化しなかった。

表2 コロナ影響有り群の卒業後の職業選択 (複数回答)

	コロナ禍以前		コロナ禍以後	
	人数	(%)	人数	(%)
看護師	94	(62.7)	99	(65.6)
保健師	29	(19.3)	30	(19.9)
助産師	23	(15.3)	15	(9.9)
大学院	3	(2.0)	6	(4.0)
その他	1	(0.7)	1	(0.7)

考察

1. コロナ影響有り群の特徴

キャリアデザインに影響を受けた学生は約半数程度であった。コロナ禍という同じ状況にあっても、キャリアデザインに影響を受けるかどうかは異なることを示している。

コロナ影響有り群の約半数は授業形態の変化、看護師の過重労働の報道、収束の見えない現状がキャリアデザインに影響を与えたと回答した。日本看護学教育学会(2021)の調査結果にあるように、コロナ禍により授業形態が変化したことによって多くの学生がこの先の学習継続への不安を感じているといえる。新型コロナウイルス感染症が流行し始めてから3年ほど経過している現在においても、コロナ影響有り群はキャリアデザインに影響を及ぼした内容として授業形態の変化を7割以上が回答しており、ある程度臨地での実習や対面での授業が可能となっても学習に対して不安を感じているのだと考えられる。コロナ禍の収束の見えない現状に関しては、このまま学習継続や就職、キャリアへの不安を抱き続けることになるのではという懸念があるといえる。新型コロナウイルス感染症流行から感染状況の悪化を繰り返しているため、収束の見えない現状はコロナ影響有り群の学生にとって不安を感じる要素であると考えられる。また、コロナ業務が増加した看護師の過重労働の報道によって将来看護師として働くことへの不安が生じているといえる。このように、コロナ影響有り群は新型コロナウイルス感染拡大による状況を不安として捉え、影響を与えた特徴があると考えられる。

授業形態の変化について大池ら(2022)は新型コロナウイルス感染拡大による看護学実習を臨地で行った時間数の違いは学生自身の学習活動の自己評価の得点に有意差がなかったことを報告している。このことから、コロナ影響有り群は授業形態の変化がキャリアデザインに影響を与えたと回答していたが、学習活動を遂行していたことが推測される。また、コロナ業務での医療職者の活躍に影響を受けたと回答した学生もおり、肯定的な状況もキャリアデザインに影響を与えたと考えられる。

2. 看護学生のキャリアデザインへの影響要因

志望動機の「自分の病気・通院体験」は看護学生のキャリアデザインの影響要因で、コロナ影響有り群(median=2)と無し群(median=1)の比較では有意差がある項目でもあった。一方、基本属性である自身の入院体験の有無は有意な項目ではなかった。自身の患者体験であっても看護職の志望動機として当てはまるか否か、実際の体験なのか結果に反映していることが示唆された。

新型コロナウイルス感染拡大の看護・医療を想像させる可

能性がある近親者の医療職者の存在、自身の入院経験、看護体験は、キャリアデザインの影響要因ではなかった。日本看護学教育学会(2021)による調査では、コロナ禍以後も全体の20%以上の学生が看護職を目指す気持ちが変わらないあるいは強くなったという結果を報告している。コロナ影響有り群の卒業後の職業選択の順位はコロナ禍前後で同じであった。またコロナ影響有り群無し群ともに「やりがい」「人の役に立ちたい」の内発的動機、「資格が取れる」の経済面・自立の志望動機の中央値は4-5であった。これらのことから、看護学生はコロナ禍においても看護職を目指す動機があるため、看護・医療を想像させる項目が看護学生のキャリアデザインの影響要因にならなかったと考える。

3. 看護学生のキャリアデザインに影響し得る状況での教育的支援

今後再び看護学生のキャリアデザインに影響を及ぼす出来事が起きたとしても、看護学生がモチベーションを維持、向上できるような教育的支援を行うことで、学生は継続して看護の道を歩んでいくことができると考える。具体的な教育的支援として末永ら(2018)は、キャリアアップや社会貢献の意義・価値を見いだせるような講義・演習・実習を通じた教育内容・方法の工夫が重要であると述べている。また田辺ら(2021)は、看護職のイメージを具体的に持つことが看護の理解につながるため、イメージのしやすい看護職の活動場面の提供が必要だと述べている。実際に全体の6割以上の学生が卒業後看護師として就職することを選択肢の1つと考えており、感染症下であっても看護職の具体的なイメージを持つことができるような講義や演習が必要であると考えられる。また、機会や時間が制限されたとしても臨地実習を行うことは看護学生のキャリアデザインの形成において有意義であると考えられる。

研究の限界

本研究は対象を特定の大学に限定しており、結果を一般化できない。今後は研究対象を拡大した調査を実施する必要がある。

謝辞

本研究調査にご理解・ご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

引用文献

- 古川秀敏, 小出水寿英, 山口恭平, 他(2016):看護系大学生の抱く看護師理想イメージおよび看護系大学生自身の自己イメージの構造, 関西看護医療大学紀要, 8(1), 19-26.
- 一柳陽子, 谷山牧, 山崎千寿子, 他(2009):看護学生の入学・職業選択動機の実態と構造, 川崎市立短期大学紀要, 14(1), 21-27
- 一般社団法人日本看護学教育学会(2021.7.07):調査「新型コロナウイルス感染症拡大状況下で教育を受ける看護学生の声」概要, [https://jane-ns.or.jp/wp-content/uploads/2021/07/210713.pdf\(2021.9.03 閲覧\)](https://jane-ns.or.jp/wp-content/uploads/2021/07/210713.pdf(2021.9.03 閲覧))
- 日本看護協会(2021):はたさぽ ナースのはたらくサポートブック, [https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/kakuho/2022/hatasapo.pdf\(2021.9.03 閲覧\)](https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/kakuho/2022/hatasapo.pdf(2021.9.03 閲覧))
- 大池真樹, 鈴木祐子, 大槻久美, 他(2022):COVID-19 下での看護学実習における学習活動の実態-自己評価尺度と質問紙を用いた調査結果-, 東北文化学園大学看護学科紀要, 11, 6-7.
- 末永弥生, 佐藤みづ子(2018):看護大学生の自律性欲求と進路選択要因及び進路意思決定の困難さとの関連, 看護教育研究学会誌, 10(2), 32-34.
- 田辺幸子, 水田真由美(2021):看護系大学生の看護職志望の程度が高まる要因からの教育的支援の検討, 日本医学看護学教育学会誌, 30-2, 34-41.